

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 庄内【1号館】		
所在地	宮崎県都城市庄内8122-1		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過の中、思うように他ユニットご利用者様との交流や散歩など行う事が出来ない状況、又ご家族様との面会もままならない状況ですが、居室・ホール等、季節感を出し清潔で安全な空間作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然豊かな地域に立地しており、敷地も広い。立地を生かして、屋外で外気浴を楽しむ機会も設けている。各ユニットごとに加湿器を準備し、50パーセント以上になるように対応し、感染症対策にも力を入れている。入浴を楽しめるように入浴剤や季節に応じた対応を心掛け、現在の入居者は拒否なく、定期的な入浴が行えている。ホームの看護師が健康状態に関する情報収集をし、主治医と連携し健康の維持に努めている。協力医療機関との連携も図れており、看取り体制を整えているところでもある。また、定期的な職員会議や面談を通して、意見交換を行う機会も設け、ホームとしてサービス向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で法人理念を唱和し、意識を高め現場での実践に繋げている。	理念を職員更衣室にも掲示しており、目に触れるようにしている。また、理念の見直しを意見を踏まえて1年に1回行い、意識付けに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス、感染予防につき地域の行事や職場体験等中止になり交流は、行っていない。	昨年は、入居者が花の苗を育て、地元の小学校に贈呈する機会があった。これまでに生徒が施設に歌を歌いに来たりするなど、交流を図ってきた経緯もある。今後、感染症の状況に応じて対応していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスにより、休止中ではあるが、終息後、再度行って行く予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染予防の為、運営推進会議は書面にて確認いただき、意見交換を行うサービス向上に努めている。	感染症対策で書面での開催が主である。ホームからの情報発信を行っている運営に関する具体的な対応策等について、意見交換を行う点で課題がある。	ホームとしての課題になっていることや、現在の対応策について、具体的に提示し、意見交換に繋げてほしい。防犯や水害など地域との連携を模索しつつ、意義のある運営推進会議となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為、包括の方も書面にて確認いただき、アドバイスや評価を受けている。	電話や書面での意見交換の機会を活用している。関係構築の機会は多くはないが、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	相模原の事件を後、門の施錠はかけている状況又、本年度は、新型コロナウイルス予防の為、時間を区切り、玄関の施錠も行っている。身体拘束・虐待防止に関しての、定期的な勉強会を開催し職員からの意見も受けている。	身体拘束に関する勉強会を開催し、弊害への理解に努めている。入居者の状況に応じて、天気の良い日には、全ユニットで外にて茶話会を行うなど、開放的に過ごせるように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で定期的に学び。毎朝の朝礼時にもケアが自分中心にならないように注意喚起している。又、職員間でも注意できる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度について学習できる場の提供が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容や重要事項を説明し、疑問点などはその場で説明し納得を図って十分に理解と納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様に電話やメールにて意見や要望を伺っている。	家族とは電話やメールを活用し、意見交換を行っている。食事のメニューや歩行訓練の機会に関する要望に応じるなど、できることの実現に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議では出席者からの意見も引出し、積極的な意見がもらえている。	毎月、職員と面談の機会を設け、意見を聴くように努めている。車椅子での移動に関して、ヒヤリハットで挙げた危険個所について、修繕を行い、より安全な環境になったことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や悩みなどを聞く時間を作り、本人の理解に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推薦した職員を研修に参加させたり、法人内の勉強会などにも積極的に参加を促している。 (コロナウイルス感染予防の為、研修及び勉強会はzoomにて行っている)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防の為、本年度は、他同業者との交流は殆どない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に実態調査にてご本人様とあって、アセスメントを行いながらご本人様との関係性づくりも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはご家族の要望や困りごとを確認し、対応する。その後もご本人の様子を電話にて報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況に合わせて他のサービスも視野に入れつつ相談対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝いができる事はご利用者様にも協力してもらいながら、役割を持って生活して頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況を見ながら、ご家族様に相談を行い、両者の思いを汲み取り支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人や遠方からの面会がある時は、場所を提供などを行っている。	入居前に住まれていた近所の方の面会がある。また集まりなどで良く話されていた事、旅行に行った思い出などに耳を傾けている。情報は記録に残し、職員間で共有できるようになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、密を避け各ユニットにてレクリエーション・お茶会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移動や入院時なども円滑になるよう支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症ケアの理念をもとにご利用者様中心主義でケアを行っている。又、日々の行動、発言などから把握しモニタリングを行って、寄り添うケアを行えるよう努めている。	入居者ごとの担当職員が情報収集を行う。意向に寄り添えるよう、農業をされていた方と職員とで花を育てたり、裁縫が得意だった方に裁縫をして頂いたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントでこれまでの生活歴やサービス利用の経過を確認している。その他にも気になったことなどはご本人、ご家族様へ確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態報告や気付きについては、連絡ノート及び口頭にて伝え、情報を共有・状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の達成状況を確認し、現在の状況も合わせて家族や本人、スタッフの意見も聞きながら計画作成に当たっている。	月に1回ユニット会議を開催し、職員間で意見交換を行う。計画作成担当者は、家族の意見も踏まえて取りまとめている。独自の様式を使用し、現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとにケアを行い、小さな気付きや日頃の様子を記録に残し実施状況をユニットのスタッフで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険外のサービスでも極力対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの美容室に安価で訪問利用をお願いしているが、コロナウイルス感染予防の為状況を見て行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と自施設看護師が、こまめに連絡調整しながらご利用者様の様子を報告し治療内容の継続や変更などの調整を行っている。	ホームの看護師が情報収集を行い、主治医に報告している。主治医から受診の判断が出た場合に受診対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院との連絡調整や、受診の必要性を確認し、ご家族とも相談し、円滑に病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師とも相談しながら容態を確認し、退院の調整等行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化及び看取りに関する指針を入居契約時に説明し同意を頂いている。状態の変化に合わせて適宜相談行っている。	ホームの指針に基づき、重度化と終末期における意向の確認を行っている。看取りの希望に関しては、協力医療機関と連携して体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、主治医又は、自施設看護師に状態報告し指示のもと対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の視点から本年度の自治会長・地区消防団町と電話にて連携を取っている、また法人内において、水害時に備えて避難訓練を行っている。	水害指定区域に入っている為、入居者・職員の人數分のライフジャケット、1週間分の水、食料の備蓄を行っている。また法人の近隣施設と連携し、夜間対応に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様目線で声を掛け、尊厳を傷つけないようケアを行っている。	職員が入居者と交流する際は苗字を「さん」付けで呼称し、尊厳の保持に努めている。入居者ごとの居室をその方に応じてレイアウトしており、プライバシーを守れるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しいご利用者様へはある程度選択肢を絞りながらご自分でも選択できるようなケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合のケアにならないよう日頃から取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい方に対しては身だしなみの支援が満足に行えていない状況。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を美味しく頂く為、食事前に口腔体操を行って頂いている。食事に関しては手伝うことが難しく職員が行っている状況。片付けは下膳程度手伝ってもらっている。	毎食ごとに検食を行い、細かな要望でも伝わる体制である。ときには入居者と一緒におやつ作りを行い、楽しみになるように支援している。約半数の方が何らかの食事介助が必要であるが、それぞれに応じて対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分制限、禁忌食などに注意しながら食事摂取量、水分摂取量を確実に確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。又、定期的に専門医による往診と歯科衛生士による口腔ケアを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行い、誘導を行っている。歩行が困難・不安なご利用者様に関しましては、日中はトイレ誘導、夜間帯はポータブルにて対応している。	拒否の強い方には、介助の方法等について職員間で協議し、入居者に合わせて対応するように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(牛乳やヨーグルト)の提供や入浴時の腹部のマッサージ等を行っている。必要時は適宜主治医に相談し薬剤コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回実施している。本人の希望に合わせて回数も調整しているが清潔保持出来るよう清拭などで対応もしている。又、季節に応じて柚子風呂や、入浴剤を使用している。	入浴の機会が楽しみになるように、入浴剤や季節に応じた対応など心掛けてきた。その結果、入居者は拒否なく入浴され、清潔保持に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝はご本人のペースに合わせている。テレビを観賞したり談話する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員で薬剤の確認を行い、自施設看護師を通し定期的に主治医や薬剤師と連絡を取り薬の変更なども検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染予防の為、各ユニットごとに施設敷地内花壇にて花を育ててを頂きたり、歌レク、体操レクを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、本年度外出の支援は、行えていない状況。	コロナウイルスの感染状況を勘案して、一緒に買い物に行く機会を設けている。敷地内で気分転換が図れる機会を設け、家族への報告も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分で金銭管理を行っている方はおらず、必要な物品や希望される物品は、ご家族に相談し、持ってきていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族にお電話して状態を報告している。希望される方は直接お電話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた壁飾りや花を飾って季節を感じていただいている。又、室温や湿度に関しましても時間を決め、記録し空調管理を行っている。	周囲は田んぼや畑などがあり、日当たりが良い。加湿器を設置し、50パーセント以上を保つようにしている。室温は入居者に合わせて対応するよう心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋から出るとホールで皆さんが交流できるようにソファーやテーブルを配置し、日常より談話などの交流がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人の希望があれば家具の持込みなども対応している。又、フローリング・畳の居室がありご利用者様・ご家族の要望によって選んでいただいている。	入居者に合わせて対応し、仏壇を持ち込まれている方や、趣味の編み物の道具を置いておられる方などおられる。居心地がよいように工夫することで、居室で過ごされることを希望される方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人ひとりに合わせて部屋の配置を工夫している。お部屋が分からない方には表札のようにお名前を張り出す等。		